

特集

めまいの診療

エビデンスの限界を共有しよう

めまいを主訴として救急外来を受診する患者は多く、救急・総合診療におけるめまい患者対応の How to を述べたマニュアル的な発行物も増え、例えば「BPPV」という疾病名や、「Epley 法」という治療法は有名になりました。一方で、めまいの背景にある種々の特殊疾患や病態への理解はまだ不十分で、その診断にも治療にも、どこまでエビデンスが存在し、どこからがわかっていないのか、正確な知識の共有が得られているとはいえない状況があると考えます。

そこで今号の『救急医学』では、めまいそのものと、めまいを主訴とする種々の疾患の専門的知識にあえて踏み込んでいく特集を企画しました。具体的には、めまい発症の解剖・病態生理学的なメカニズムを中心に、各種めまいの診断や治療の実際とそのエビデンスについて、めまい平衡医学領域のエキスパートの先生方から可能なかぎり学術的に解説いただいています。

そこまでの知識は「現場では必要ない」と感じる読者の方もいるかもしれません。しかし、むしろそのような考え方になりがちな救急医にこそ、最新の / 正確な知識と自信を携えて現場診療にあたってもらえるようにすることが、本特集の目的です。めまいという症候自体への理解を深めることは、一歩進んだめまい診療の一助になると考えます。そしてそれは、救急医にとって、また連携する専門他科の先生方にとって、そして何より患者にとって、より望ましいめまい診療の提供につながるでしょう。

本特集を読むことで、明日からのめまい診療に“わかったつもり”で臨むのではなく、正しい知識とエビデンスに基づいて臨めるようになることを願っています。

特集企画ゲストエディター：

労働者健康安全機構横浜労災病院救命救急センター 中森 知毅